

糸魚川市・高崎市視察報告書

視 察 者：宮戸 光

視 察 地：新潟県糸魚川市
群馬県高崎市

視 察 日：平成29年5月18日、19日

視 察 事 項：糸魚川市（糸魚川市駅北大火に関する視察について）

（その後の防火体制と近隣の防災協力体制について）

高崎市（群馬ダイヤモンドペガサスへの支援について）

（だるま市の開催と地域物産振興について）

視察対応者：糸魚川市議会 副議長 渡辺重雄氏

糸魚川市議会事務局 局長 小竹和雄氏

係長 山川直樹氏

糸魚川市消防本部 課長・副危機管理監・消防指令 小野浩氏

高崎市議会議員 丸山和久（元議長）

高崎市議会事務局 課長補佐 小見一秀氏

高崎市商工観光部 観光課長 新井修氏

係長 瀧本和正氏

係長 山本晋也氏

係長 金井康幸氏

群馬ダイヤモンドペガサス（株）群馬スポーツマネジメント 取締役社長 堀口芳明氏

（一社）高崎市観光協会 常務理事 広瀬雅美氏

（糸魚川市）

冒頭、今回の大火により被災されてしまった方々にお見舞いを申し上げます。

まず、なぜあれほどの大火になってしまったのかについては、消火の際に10か所以上に飛び火、しかも約25cm位の木片の塊が消化防御ラインを超えてしまったのが大きな原因だと言う。

元々この地区（糸魚川市）は南に大きなアルプス山脈を控え、フェーン現象が起こるところではあるが、生活用水としての水脈はこの山の一部にあり常にまちに対して供給出来、また水圧も十分加えられると言う。

しかし想定外の強風が吹き、第一防御ラインを越えられてしまった事と、他市等の応援隊の地理上の理解の希薄、そして騒音による無線の音が聞き取れない状況など様々な要因が重なって消火に時間が掛かってしまったようだ。

通常の火災では消防団は交通整理などの任に当たるそうだが、今回の大火では糸魚川市消防本部と糸魚川市消防団（1000名、70台）が一致団結にて消火に専念し、他の職員や警察が交通整理や安否確認の任に当たったそうだ。

後に駆けつけた他市や新潟県、自衛隊の消火隊を合わせて最終防御ラインで一斉に並び（西風を想定し火災現場の東側にて）類焼に備えたそうだ。

TVでは『水が足りない』との市長のコメントが報道されたが、あれは初期消火の段階で防火水

槽の水が減ったことを意味し、消火栓から供給される水脈については7キロ圧であったようだ。その裏には、水道利用を控える指示に住民らが応えた事もあると言う。

出火から鎮火まで30時間以上が掛かる大火となったが、死者はゼロ、一般負傷者は2名と言うことである。

これからのまちについて区画整理を行う意向だというのが、長屋が多い地域の為、一足飛びにはいかない様である。

一軒長屋を建てることになると、各持分を所有する方々の裁量（資金力もも含めた）によるし、文筆を行い各々建てることになると、建蔽容積の問題で今迄より小さな建物しか建てられないのである。

市としては、一定の方向が固まらないうちには何も進めることが出来ないと言うのが実情のようだ。

議会としても特別委員会を設置し対応にあたり始めるようだが、被災者260人のうち、公営住宅34人、民間住宅85人が糸魚川市へ現住されているだけで、それ以外の方々は市外県外へ避難をされている状況である。非常に爪痕の大きい大火となったと言える。

次に、今回の消火で大きく目立ったのが、生コン会社のミキサー車が防火水槽まで自主的に水を運んでくれたそうであり、わがまちでも火災協定を策定しても良いかと参考になった。

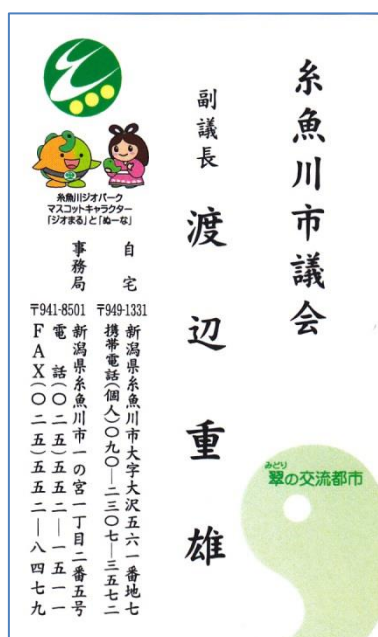
また、糸魚川市は市域が広く山を多く抱え、一度山火事が発生した場合には消防本部や消防団の掛け付けに時間が掛かる場合が想定されるようである。

その対応として消防OBの方々を予備隊として位置づけ、いざという場合には、地元の元消防団OBらと共に活動をお願いしているとのことだ。

次に、この大火後に怪我を最小限に減らす為、ゴーグル、頭巾、ライト、長靴を様々な理由から新たに購入したそうである。

以上、短い時間ではあったが大変勉強をさせて頂いた。

これからまちの復興を行うと言うお忙しい中、今回視察をお受け入れ頂いた渡辺副議長を始め、小竹局長、小野消防指令ありがとうございました。



糸魚川市議会
副議長
渡辺重雄

糸魚川市議会事務局
〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮一丁目二番五号
FAX (025) 552-1511
TEL (025) 552-1511
E-mail gikai@city.itoigawa.lg.jp

糸魚川市議会事務局
〒949-1331 新潟県糸魚川市大字大沢五六一番地七
FAX (025) 552-1511
TEL (025) 552-1511
E-mail gikai@city.itoigawa.lg.jp

糸魚川市議会事務局
〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮一丁目二番五号
FAX (025) 552-1511
TEL (025) 552-1511
E-mail gikai@city.itoigawa.lg.jp



糸魚川市議会事務局
局長
小竹和雄

糸魚川市議会事務局
〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮1丁目2番5号
TEL (025) 552-1511(内) FAX (025) 552-8479
E-mail gikai@city.itoigawa.lg.jp



糸魚川市
消防本部 消防防災課



課長・副危機管理監
消防司令 **小野 浩**
Hiroshi Ono




〒941-0069 新潟県糸魚川市南寺島2丁目10番20号
TEL (025) 552-2311 (消防防災課)
TEL (025) 552-0119代 FAX (025) 552-6925
E-mail fd@city.itoigawa.lg.jp



糸魚川市
議会事務局 議会係

係長
山川直樹
Naoki Yamakawa



〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮1丁目2番5号
TEL (025) 552-1511代 FAX (025) 552-8479
URL <http://www.city.itoigawa.lg.jp/>
E-mail gikai@city.itoigawa.lg.jp





(高崎市)

高崎市の群馬ダイヤモンドペガサスへの支援については、高崎市への誘客促進につなげることで、高崎の知名度、ブランド力の向上を図るといった目的のもと行っている。

また、球団が野球教室などを通して地域密着型での盛り上げや、学校等の部活への指導への取り組みなども行っており、球団が地域に愛され、地域と共に発展していることが良くわかった。

しかし、球団を維持するための費用については球団自身が工面しており、球団経営を行うための努力は並大抵のことではないことを球団社長、広瀬観光協会常務理事から伺えた。特に所属選手には月10万円ほどの給与（住居費は別）を約半年しか支給できず、選手は残りの半年は自身が求職を行い、生活費を工面するしかないということである。

それでも選手は野球が好きだから、将来はNPBに入りたいとの夢を持って地域と共に、地域の中で活動をしている。

今は横浜DNA監督のラミレスも一時期このダイヤモンドペガサスに所属をし、復帰をめざしプレーをしていたそうだ。

こう言った涙ぐましい状況の中で行政として何かほかに支援をできないものか、という問いかけを私自身自問自答していた。

余談ではあるが、高崎駅前に高崎スポーツアリーナを建設したことにより、インバウンドとして早速合気道の世界大会が行われ、多くの外国人が訪れ経済効果がかなり上がったということだ。

また、群馬県が新たにコンベンションセンターを建設するというので、東京から100キロと言う地の利を生かし、様々誘致を行って行くと言う。

2020年東京オリンピック・パラリンピックではポーランド国を誘致するというので相当の気合の入れようを感じた。

箱もの行政について様々な意見もあるが、上手く行っているケースとして非常に参考になった。

それ以外に高崎駅前には様々ホテルがあり、ホテルの誘致も積極的に行っている。

人口で上回っている本市は非常に参考にした方が良い、悪く言えば本市はやる気がないレベルだと感じた。

ホテルがあり、アリーナがあり、コンベンションも建てられる、そして様々誘致を行っていく、

と言う高崎市と、只々通過交通、宿泊型の観光が望めない本市との差を改めて感じた。
次に、本年1月1日2日と初めて開催された高崎だるま市だが、高崎市の勢いを感じた。
1月1日と言えば、ニューイヤー駅伝としてお正月恒例で誰もが知っている駅伝の開催場所である前橋市・高崎市だが、高崎市役所は第2中継所となっている。
その中継所である市役所から高崎駅とのほぼ中間地点に大きな交差点があり、駅伝コースはその交差点で市役所を背に左折をする。
今回初めて開催した高崎だるま市会場は、その交差点から1ブロック高崎駅へ向かった交差点から高崎駅までの片側2車線の大通りである。
ニューイヤー駅伝を観戦しに来た観光客を、ほぼそのまま高崎だるま市会場に流れる導線・道筋を作ったと言うことが、すごいことだと感じた。
しかも、1月1日は民間企業でもほとんど休みを取っているが、ニューイヤー駅伝の他にだるま市を開催すると言うことは高崎市役所職員さんの意気込みも感じられる。
裏話として、副市長以下管理職の方は職員組合に頭を下げたとする。1月1日2日と言う日を考えれば、勿論そうでなければ実現できないであろう。
この高崎だるま市の開催を決定したのが何と昨年（平成28年）の9月だと言うからまた驚きである。
道路規制を掛ける群馬県警察からは、ニューイヤー駅伝が通過後、1時間後からのだるま市の開催にするよう要請があったようだ。
さて、そもそも高崎だるま市と言えば少林山達磨寺が発祥の地として知られ、1月6日7日には多くの観光客が少林山を目指し、参拝を行っている。
しかし数年前、達磨寺と達磨を生産している群馬県達磨製造協同組合との関係が崩れ、過去の文献を調査していたところ、江戸後期の文献『高崎談叢抄』から同市田町の初市でだるまを売っていたことが明らかになり、この度の新たな企画へとつながったと言うことである。
したがって、少林山は別開催として伝統行事や演奏会が行われると言うことである。
既に、高崎市では来年の企画の予定しており、来年はニューイヤー駅伝コースの際までだるま市会場を延伸する計画で、調整を始めていると言うことだ。
新幹線高崎駅を下車し、徒歩ゼロ分のところにだるま市会場を設け、ニューイヤー駅伝コースとつなげて観光客を誘致すると言った手法、市長のセンスは見事であると思った。
私自身公職の内は観に行く事は出来ないが、いずれ観てみたいと感じる次第だった。
最後に、視察を受け入れて下さった、(一社)高崎市観光協会常務理事の広瀬雅美様を始め、堀口球団社長、丸山元議長、市当局関係者の皆様に感謝を申し上げます。


高崎市議会議員
丸山和久


携帯 090-3243-9951
 (議会事務局) 〒370-8501
 群馬県高崎市高松町35番地1
 TEL 027-321-1280

E-mail : maru1116@dan.wind.ne.jp



 山上碑 多胡碑 金井沢碑


上野三碑
KOZUKESANPI


高崎市 商工観光部
観光課

課長 新井 修

〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
 TEL : 027-321-1257 (直通) FAX : 027-325-4879
 インターネットメール : arai2225@city.takasaki.gunma.jp
 LGWANメール : kankou@city.takasaki.lg.jp



高崎市議会事務局
議事課

課長補佐兼調査広報担当係長

小見 一 秀

KOMI Kazuhide

〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
TEL027(321)1281 FAX027(327)8303
E-mail:giji@city.takasaki.lg.jp

高崎市 商工観光部
観光課 観光振興担当

係長

瀧本 和 正

〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
TEL 027-321-1257 FAX 027-325-4879
E-mail:takimoto2983@city.takasaki.gunma.jp



高崎市 商工観光部
観光課 観光振興担当

係長

山本 晋也

〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
Tel 027-321-1257 Fax 027-325-4879
E-mail:yamamoto3128@city.takasaki.gunma.jp



高崎市商工観光部

商工振興課 工業振興担当

係長 金井 康 幸

〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
TEL : 027-321-1256 FAX : 027-325-4879
E-mail : kanai2923@city.takasaki.lg.jp